

# 2002

## ヒマラヤをとりまくチベット少数民族のデザイン・工芸文化に関する国際学術調査

報告：服部等作



【写真1】 輪踊り・3次元画像収録風景（雲南省迪慶族自治州）



【写真2】 ソワル村六月会の神舞（青海省黄南藏族自治州）

### 1. 研究目的

第十次五ヶ年計画のもと経済発展が著しい中国では、経済発展の一方で伝統的社会に歪みが生じている。本研究では、衰退と俗化が著しい少数民族・チベット族の工芸美術と文化について研究代表者・服部のもと日本、中国、韓国、英国、フランス、イタリアの研究者を加え科学研究費の助成によるフィールドワークを以下の内容で推進している。

### 2. 研究内容

2.1 平成12年-14年度(文部科学省科学研究補助費基盤研究B(1)・国際学術調査課題番号-12571002)は、主にヒマラヤ文化圏の東南部にあたるカム地方(雲南~四川省)のチベット族伝統の民族芸能であるゴォージョ・輪踊りを調査の核に、その工芸・芸能、造形・表現について研究調査をすすめた。【写真1】

2.2 平成15-18年(同上基盤研究B(1)・国際学術調査課題番号-15401009)では、ヒマラヤ文化圏の南麓部のインドの仏教聖蹟と美術センター各地、ならびにアムド(青海省、甘肅省)からウー(西藏自治区)東部をむすぶチベット各地の造形・表現のかかわりを調査し、現在も推進中にある。【写真2】

2.3 平成16-19年(同上基盤研究C・一般研究課題番号-16602013)

本研究では、青海省黄南藏族自治州同仁県(レコン・熱貢地方)で14世紀から定住する伝統的な工芸家集団によるタンカ‘仏画’、及び工芸美術が文革の渦中にあっても保護され、本調査で見出された寺院壁画など、伝統と継承に関する調査研究を継続中である。



【写真3】 シンポジウムITS・2002にて写真1の立体画像を見る参加者

2.4 平成13年-14年度(日本学術振興会・日英科学共同研究事業)は、ヒマラヤ文化圏の美術工芸について欧州に収蔵される資料を大英博物館およびヴィクトリア&アルバート美術館(英)を中心にグメ東洋美術館(仏)、ローマ東洋美術館(伊)にて共同調査をした。

### 3. 研究成果

国際会議：2002年京都にて「チベットの芸術と文化—その現在と未来」ITS2002 / International Tibet シンポジウムを9月13-14日にかけて開催した。これは科学研究費による国際学術調査の推進成果を4つの部会にて発表討論ならびにチベット学術資料を展示し会期中450名参加による学術交流をすすめたものである。【写真3】

報告書：服部等作「チベットの芸術と文化—その現在と未来」国際チベット研究シンポジウムITS2002 論文集、2004

服部等作：中国雲南省・四川省藏族における工芸と芸能の記録保存と文化伝承をめぐる研究、文部科学省科学研究費B(1) 国際学術調査報告書、文部科学省、2004

服部等作：青海人民出版社、藏族生活和生活信仰中的裝飾美術、2000年青海海峽兩岸崑崙文化考察學術檢討會—崑崙文化論集、2000年